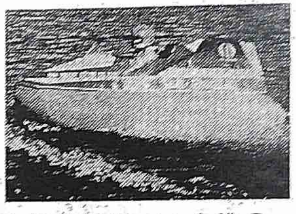
NO.5

昭和63年(1988年)1月14日（木曜日）
日本経済新聞

小型ホーバー 住重が進出へ

レジャー用、夏発売



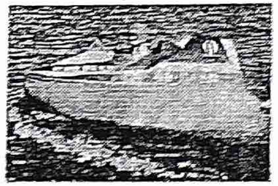
住友重機械工業はレジャー用の小型ホーバークラフト事業に進出する。群馬県のベンチャー企業の日本空艇から技術と生産・販売権を取得し、「ジェット・ホーバー」＝写真＝の名で今夏、国内で発売する。数年内に北米向け輸出をめざす。六十五年に年産五千台の計画。日本で初の小型ホーバーだが、マリン用品として川崎重工業の「ジェットスキー」などいわゆる水上バイクと競合しよう。

二月中旬、東京・晴海で開く国際ボートショーで初公開する。一人乗り「ジェット・ホーバー」は全長二・八四㍍、重さ百八㌔。三十一馬力エンジンで空気を地表・水面に吹きつけ、最高時速は七十㌔㍍。販売価格は二百万円前後の予定。このほか二人乗り、四人乗りも開発する。水上バイク（川重製で八十万―百五十万円）に比べて高いが、陸上（公道を除く）も走れる。どちらも船舶関係の免許は必要。

生産は住重追浜工場で初年度五百台、来年は千台。

住重が事業化

多角化の中核に ホーバークラフト



住友重機械工業は経営多角化の中核としてベンチャー企業の日本空艇（本社群馬県大泉町、社長斎藤一夫氏、資本金五千万円）が開発した高速小型ホーバークラフト＝写真＝を事業化する。住重が改良を加え、追浜工場で量産する。住重と日本空艇が二対一で出資する販売会社エクセ（資本金三千万円、二月一日設立予定）が国内外に代理店網をつくる。今夏から一人乗りで一台二百万円前後で国内販売を始め、将来は北米などへ輸出する。

まず六十三年度は五百台の生産でスタート、六十四年度千台、六十五年度五千台に拡大する。住重は川崎工場跡地に海洋総合レジャー基地を建設する予定で、これに続く事業多角化の第一弾として「ジェット・ホーバー事業」を展開する。二人乗り、四人乗りを開発するほか、官公需もねらう。

一人乗りは全長・全幅・全高がそれぞれ二・八四×一・四八×〇・八九㍍で重さ百八十㌔グラム。FRP（繊維強化プラスチック）を多用して軽量化し、排気量五百cc、三十一馬力余のエンジンで浮上・走行用プロペラを回す。最高時速七十㌔㍍に達し、水陸両用で雪や氷の上でも利用できる。二月十一―十四日に東京・晴海で開く国際ボートショーに出展する。

63. 1. 14
日経産業新聞